

令和5年度 第5回西伊豆町立文教施設等整備委員会会議録

- 1 日 時 令和6年2月28日(水) 19:00～
- 2 場 所 西伊豆町中央公民館(安良里) 3階多目的ホール
- 3 出席者
委 員 高井廣、生田繁善、藤井文憲、浅賀丈吉、窪田いづみ、
花田麻莉子、中平阿美、山本諭、島田桂吾、金刺和子、
藤井節子、藤井定男、齋藤雅子、山本美生、渡邊篤之
オブザーバー 山本憶久、鈴木ゆきみ
町当局 鈴木教育長、朝倉事務局長、山本みち代、萩原宏実
山梨純怜

事務局長：皆さんこんばんは。今日は山本久美子委員が欠席ということで他の委員の方は参加していただきましてありがとうございます。

それではただ今から、令和5年度第5回西伊豆町立文教施設等整備委員会を開催いたします。よろしく願いいたします。それでは、早速ですがお手元の次第に沿って進めて参りたいと思います。まず、委員長から挨拶をお願いいたします。

委 員 長：皆さんこんばんは。第5回ということでよろしく願いいたします。今日もフェリーで来たんですけれども、今日初めてかも知れませんが夕陽を見ながら土肥港からこっちに向かってきました。1回目の時は12月だったので着いた時にはもう暗くて夕陽を見ることが出来なかったですけども、改めてきれいな夕陽だなということを見ながら思いました。ぜひ、そういった自然の豊かさだとかこの西伊豆町の良さのところを良いところを生かしたこども園の建設の土地ですとか、その後の整備のところにつけて行くためにも今日の議論はとても重要になるかなと思いますので、御協力のほどよろしく願いいたします。

事務局長：ありがとうございました。続きまして、教育長から挨拶をよろしく願いします。

教 育 長：皆さんこんばんは。今日はお一人欠席ということですが皆さんお揃いになられてありがとうございます。私もちょっと一昨日まで入院していたものですから退院したばかりでまだちょっと圧迫感を感じる感じですがそれでも無事に戻って来ることが出来ました。入院中に色々思ったのが、実際気を付けても病気になるものはなっちゃうので。ですから今をしっかり生きて行くこと、やるべきことをしっかりやるということが大切なのかなと思います。学校等においても普段の学校教育、園教育が普段の活動がしっかり出来るような施設とかそ

ういうものを考えて行く必要があるのかなんてことを思いながらいました。この後、御審議いただいて最終的なものが今日あるいは次回辺りに出て来ていただければ、この後はファブリックコメントにこれを出して町民の皆さんの意見を問うて、そして議会の方に出して議会の方の了解を得ればその方向で進んで行くのかなと思いますので、皆さんの〇〇〇〇な情報とか出して来てより良い施設のあり方を決めていただけたらありがたいと思いますのでよろしく願いいたします。

事務局長：ありがとうございます。

それでは議題の方に入っていきます。進行につきましては委員会規則の規定によりまして委員長に議会の進行をお願いいたします。よろしく願いします。

委員長：では、議題に入りたいと思います。

まず議題(1)候補地選定方法についてとあります。前回まで6候補地あったわけですがけれども、第4回の議論を踏まえて4つに絞られたということになります。具体的には候補地1が中田避難地付近(安良里地区)、候補地2が田子小学校、候補地3が旧洋ランセンター跡地、候補地4が旧西伊豆中学校跡地、この4つまで前回絞られたと思います。本日はこの4つの中からそれぞれのメリット・デメリットや〇〇しながら、可能であれば順位、この4つの候補で順位を絞り込んでいきたいと考えています。出来れば皆さんの方の〇〇〇〇、踏まえながら議論を残しながら選定して行きたいなど。先ほど教育長からお話がありましたけれども、ここで決まって終わりではなくて、この後様々な決議があります。やはりこれまでの議論をまた1からやるのではなくて、ここの議論を踏まえて町民の皆さんや議員の方々に御判断いただけるようなそういった議論を進めて行きたいと考えております。まず、前回からの進捗があったということですので事務局の方から補足説明をお願いいたします。

事務局長：前回、中田避難地の付近の候補地の話をさせていただいたと思うのですが、その後に地権者の方から電話をいただきまして、この航空写真で行きますとこの端のここの方ですね、ここの方が最初は「今は畑をやってるからちょっと厳しいよ。」という回答をいただきましたけれども、前回の文教の次の日に「やっぱり協力するよ。」という話をいただきましたので、そこだけ報告させていただきます。以上です。

委員長：ありがとうございます。前回の説明では、能登の震災を受けてちょっとこっちの売却の方は慎重だったという状況だったところが前向きに検討いただけるという御連絡があったということでした。何かこ

れについて皆さんの方から御質問や確認がありますでしょうか、よろしいでしょうか。その他は特に進捗はありません。

続いてこの4候補地について、実際にこども園で保育をする園長先生や先生方がどういう保育が可能になるか、そのあたりのイメージをまず皆様に少しお伝え出来ればという意見が園の方から寄せられましたので、園長先生の方から各候補地についてもこの候補地にこども園が出来たらこんな感じになるんじゃないかというところを少し状況補足していただければと思います。では、〇〇先生からお願いします、候補地ごとに行きましょうか。どっちからでも良いです。まず中田避難地付近の場合だったらどのような園出来るか、じゃあ先生からお願いします。

齋藤園長：地区を散歩出来る・安心して散歩出来るというところと、山で木の実を見つけたり、神社の鯉を見に行ったりすることが出来て散歩が充実出来るということと、地区の方との触れ合いもしやすい。地区の方もとても暖かく受け入れてくれる地域だなという話が出ました。

山本園長：伊豆海の方の職員の中では、中田避難地の方ではやはり仁科と同様にあそこは日当たりが良く環境が良い。身近な自然に触れることが出来る。散歩に行くのにも車の通りが中側だったらそんなに無いので安全なのではないかということが出ました。

委員長：ありがとうございます。では、続いて田子小学校の場合ということでお願いします。

齋藤園長：芝生が全面に敷き詰めてあり、裸足になって遊んだり寝ころんだりといった遊びが出来る。大きなクラスでしたら海岸や港への散歩も可能。魚釣りを楽しんだりすることも出来るのではないかとということと、地区に出て地域の人とのふれあいが出来る。地区の方が子どもを温かく受け入れてくれるという話が出ました。

山本園長：田子小学校の場合、高台にあるので安心安全面では◎。高台にあるので何かあってもその場に居れば良いということと、それから芝生の環境が保育環境には良いのではないかと。広々としていて自然がたくさんで保育の環境としても◎で安心ということが出ました。

委員長：ありがとうございます。では、洋ランセンター跡地についてありますか。

齋藤園長：堂ヶ島国立公園に近く、大きなクラスは三四郎島での磯遊びやトンボロなどジオについても触れる経験が出来る。自然豊かで草花を使っでの遊びは十分出来るというところでした。

山本園長：ここは全て自然に触れられるというところではちょっと出ませんでした。

委員 長：では最後、西伊豆中学校跡地をお願いいたします。

齋藤園長：山・海・川遊びや地域の散歩などが充実出来る。田畑が近くに広がり、身近な生き物とのふれあいや季節の移り変わりが感じ取りやすい。また地区の方との交流や小学校との交流が日常的に出来る。地区の方が子どもを温かく受け入れてくれるというところです。

山本園長：西伊豆中跡地の方では、盛土をしてその上ということだったので高台になるのでやっぱり安心安全という面で考えればその場に居れば良いという意見が一番大きく上がりました。あとは地域の人との交流がすぐに持てるというところです。

委員 長：ありがとうございます。保育をする側の立場として、それぞれの候補地について補足いただきました。いずれも自然環境を活かしたり地区との交流ですとかそういったことを活かしながら保育をしてくださるという思いが出来たかなと思います。

あと、ところでなんか皆さんの方から再度聞いてみたいこととか確認事項があれば、お聞きしたいと思いますが如何でしょうか。よろしいでしょうか、ありがとうございます。

では、ここから候補地の絞り込みというところで進めて行きたいと思いますが前回の時にお話してました出来れば皆様の意見の中で絞り込んで行きたいなと思いますので、どなたからでも構いませんので候補地の中でこうしたいという方の発言からそれに賛同する意見あるいはちょっと心配する意見というかたちを出しながら、じゃあこの候補地はというかたちで進めて行ければなと思います。では、どなたからでも構いませんのでここが良いんじゃないかという御意見を出していただければと思います。如何でしょうか。

委員：すいません、田子小学校の件について。子どもなんですけどハザードマップによると土砂災害に裏山がレッドゾーンというかなっているんです、これで見ると。その辺あたりが高台で田子小としては上にも〇〇〇良いと思うんですけど、その辺の心配の方は大丈夫なのかなっていうことを質問したいんですけど、どうでしょうか。

委員 長：田子小の裏山の土砂崩れのところがどうかということですね。この辺、事務局の方でもしあればお願いします。

事務局長：こちらが田子小なんですけど、この黄色いのがレッドゾーンではなくてイエローゾーンと言いまして警戒区域。警戒区域と特別警戒区域というのがあるんですけど、赤いと特別警戒区域というふうになりましてイエローなので警戒区域というところになります。もし、レッドゾーンだとかこういった赤い表記が出て来ますので、今の現状だとイエローゾーンというような状況になります。

委員長：ハザードマップ上だとレッドゾーンと書いてありますけども、この辺はどうですか。じゃあ、すいません。職員の立場になるかも知れませんが〇〇さん補足をお願いいたします。

委員：すいません、令和4年の4月に皆さんにお配りしたハザードマップについて、土砂災害の警戒区域に関しては静岡県の砂防課等にも確認をした中で資料をいただいております。ただ、実は指定まで進んでいるか進んでいないかという考え方があるんですけども、今の田子小学校の裏山につきましては元々見ての通りイエローゾーンというのが元々あります。今、静岡県の方では土砂法というものの改正があった関係でこの急傾斜地だとか、土石流の関係については見直しがされているんですね。それが一度に見直したものが結果として指定されるのではなくて段階的に指定されて行くのですが、ハザードマップについてはもうすでに調査が終わっているものは事前にいただいて、こういう危険がこの場所には実際潜んでいるんだよというのをお知らせするために、まだ指定はされていないんですけども、すでにハザードマップに反映されているような状態になっています。それから静岡県のインターネットで見れるホームページなんですけども、実は最新かということこれも実は最新ではないんです。ある程度、指定の数が例えば100ヶ所とか更新が溜まって行った時に初めてこの枠に反映されるということなんです。そうすると今現在どうかと言うと、もしかしたらすでに更新がされているかも知れないですし、まだこのままの状態が現状の指定された状況かも知れません。私の推理ではいずれ近いうちにそのハザードマップのかたち指定されるというのは静岡県の方からも言われているから事前に提供していただいた資料になりますので、出来ればこのハザードマップの方を信用していただきたいなというふうに思います。

委員長：ありがとうございます。ちょっと言いにくいと思うので僕の方から補足しますと、この候補地になった段階で色々僕が持っているルートで砂防課の方にアクセスしたところ、イエローゾーンを見直す予定はないという回答をいただいております。ということであります。なので、イエローなのでリスクが0ではない。けれどもレッドだと全体的に出来ないんですけども、その見直す可能性は限りなく低いというのが現状かなと思います。あまり〇〇・・・〇〇そういったところでは。他に今みたいに確認事項でも構いません。あるいはこちらの公開されたことも踏まえて、あれですか。

委員：能登半島地震が起きてからもう2ヶ月になります。そういった中で今、何が一番困っているか。水なんですね、水が無いと人間生きていけな

いのですが。今、田子地区は先川の方から山越えで〇〇されているのが現状です。その所がやられた場合の対策等はどういうふうに行っているのですか。津波が来る前に地震が起きます。捜索活動が出来た場合には進入することも出来ません。そのためには〇〇と中田避難地の〇〇には大きな発電機が設置されております。これは停電しても中田水源地の配電盤へと結線して第2分団の詰所の駐車場の一角に飲料水の確保するような設備も出来ております。そういうことをお知らせしたいと思います。

委員長：ありがとうございます。そういった意味で〇〇さんの方は水の心配をする中田避難地が良いのではないかと御意見になるかなと思います。ありがとうございます。他に如何でしょうか。今、田子小の土砂の心配はあるけれども、ただ何かあった時に水の心配が懸念があるということでそういうことを踏まえると中田避難地が良いのではないかと御意見がありました。他に中田避難地が良いなと思う方で言うことがあれば御発言いただければと思いますけど、如何でしょうか。

委員：私の考え方としては、この4箇所の安全面とかということもあるんですけども、わりと津波浸水区域外に建つのが①②③、④については津波浸水区域内ということ。消去法ではないんですけども〇〇はちょっとまずいんじゃないかなという考えから自分は中田避難地が良いのではないかなというふうに考えた結果をお知らせします。

まず、田子小については裏山がもちろん急傾斜地だとかという心配もあるんですけどもそれも言ってみれば盛土になる。正直、地盤は大きな地震があるとどうなるか分からないのではないかなというのが私の考え方です。

それから③の旧洋ランについても当然、盛土がすごい雑。10メートルとか20メートルとかという厚みの盛土になっています。それが問題となって小中一貫校では場所が候補地になれなかった。

それから④についてはこれも私の個人的な考え方ですけども、今後小中一貫校を計画というか考えていった時にあの場所は候補地として残しておくべきではないかなと思います。あそこにこども園を持って行ったとして小中一貫校をどこに建てますかっていうのが疑問になるかなと思うんです。そういったことから、あと中田避難地については盛土ではなく、ほぼ地山の上に建てられるという安心感。そういったことから自分は中田避難地が一番この4つの中では適しているのではないかなという結論になりました。以上です。

委員長：ありがとうございます。様々それぞれの候補地の状況比較した結果、

中田避難地が良いのではないか。特に地盤が安心というところが大きいところと、西伊豆中学校跡地の所はむしろ小中の候補地として残しておくべきではないか。田子と旧洋ランのところは地盤のところは心配なところを比較すると中田避難地ではなんじゃないかという御意見なのかなと思います。ありがとうございます。他に中田避難地が良いなという方は如何でしょうか。

委員：先週も少し私、中田避難地が良いんじゃないかと申し上げたんですけども、やっぱり中田避難地はもし行こうかなと思われている方がいらっしゃる人が居るとしたら、アクセスの面が大きいのではないかと思います。どうしても仁科からはどうしても大沢里からは遠いということになって来るので。ただ逆に申し上げれば、それ以外の面ではほぼデメリットは無いのかなというふうに思います。ので、どうしてもどの地区においてもどこからの地区からは遠くなってしまいますので、そこに多少目をつぶっていただけるのであれば中田避難地が一番良いのではないかなと思いました。

委員長：ありがとうございます。デメリットとしてアクセスのところがあるけれども、いずれもどの候補地でも人が変われば条件は同じだよというところでそれ以外のところのデメリットというのが少ないので中田避難地が良いのではないかという御意見だったかなと思いました。

委員：すいません、私も中田避難地が良いと思います。アクセスと言っても一応国道は通っていますし、そこの近くにバスも通っているので。周りの環境も静かですし、診療所もあるし安心なところはいっぱいあって周りにも大人がわりとたくさん居ますので、見守りするというのも安心じゃないかなとは思っています。デメリットというのは、私はあまり無いとは思っています。

委員長：ありがとうございます。診療所に近いということと大人が居るといふ安心感ということを書いていただいたかなと思います。他に如何でしょうか。

委員：候補地を色々考えてみたんですけども、最初はやっぱり自分が仁科の中区なので中学校があった所に来てくれたら良いかなとか思いましたし、広さも十分ありますし、ちょっと二階建てにするのはでも子どもの安全を考えるとちょっと危険もあるからどうなのかなと思ったり。元々は町有地であるのを優先すべきではないかなと最初は思いました。用地を買収するとかになるとやっぱり様々な問題が出て来たり、時間的なこともかかってしまうでしょうから、なるべく早く子ども園が出来た方が良いでしょうなという観点からすると町有地が良いということで。その次には田子小学校は上物というか建物もあります

し、そこを活用すれば良いのではないかなと思っていたんですけれども、裏山のこととか道路のアクセスというか狭さがやっぱりちょっとネックかなと思って。自分の中では一番最初は候補地としては〇〇だった中田避難地が様々な点を考えると一番今は適しているのかなという思いになりました。

委員長：ありがとうございます。非常に考えの変遷もお話しいただいてありがとうございます。民地か町有地かというところでスピード感だと町有地の方が良いのではないかなというところから行っていただけれども、民地の方が買収が可能になって来たという動きと、一方で田子小学校は建物があるということでスピード感があるけれども、やはり地盤ところですかそういったところの懸念があるとやはり最初は候補が低かった中田避難地の方が〇〇されて来たというところだったかなと思います。

委員：前回の会合から色々自分も文化財保護審議委員とか郷土研究会とかとかジオとか色々やっているもので、それとなく皆さんと話したんですが私も中田が良いんじゃないかなと思ってましたが、ちょっとやっぱり引っかかるのが多爾夜神社のところに波切り地蔵があるわけですよ。ちょっと道路工事の時に2,3メートル動かしたという経緯もあるんですけど、安政の津波の時にそこまで来て止まったとだからその上は来ないよという部分はあるとは思いますが、やはりより大きな東南海地震が来た時にその多爾夜神社のところに波切り地蔵で安政の津波の時は止まったけど、そこから何メートルすーって行くか分からないよという。有名な先生方がやったハザードマップでしょうけど最近の地震だと想定外というのがあやになってますので、中田が良いとは思いますがその辺がちょっと心配だなという点があります。以上です。

委員長：もし中田が心配だとなると浅賀さんの方でここが良いというところがもしあれば。

委員：そうですね。やっぱりあとは中田が13メートル。それ以上の所と言ったらちょっと土砂の関係はありますが次だと田子小辺りかなとは思いますが。どちらもデメリットはあるものでこれ以上なんとも言えないというのが本音です。以上です。

委員長：ありがとうございます。中田避難地のところの波切り地蔵というのが候補地のちょっと上というか、ちょっと地図出ますか。実際に過去にその来たという事実がある。そういったところから見ると少し心配だと。そういった中でもしそれ以外だとすると田子小学校。田子小学校は完全に高台にありますので安心なんだよという御意見だった

かなと思います。

委員：要するに安政の地震の時に津波がそこまで来た。当時は結局、今の道路がない時代。この今の国道 136 号が無い時代。建物が今みたいに立ってない時代に来た津波で末端がそこまで来て止まったよという言い伝えがあるわけです。

委員長：ありがとうございます。こうなると多少条件が変わって来るので同じ地震だとしても来ないかも知れないけれども、その時以上の波が来たら来るかも知れないという、どちらもかも知れないということですね。ありがとうございます。他に如何でしょうか。

委員：ちょうど地図が出ている時に確認をしたいんですけども。前回の時に地権者の方の合意が得られなかった場所をもう一度教えていただきたいんですけども。

山本係長：前回というのは、この会議の前回？

委員：この会議の前回。浸水区域外だから残しておきたいというふうな意見があって、〇〇〇〇思うんですけど。

山本係長：この下側です。

委員：そこが今、避難地になってる方の・・・

事務局長：避難地がここです。ここに建物みたいなものがあります。その下のこのこの地権者の方が残しておきたいと。逆に言ったらここから上は概ね了解というか。

委員：前回、デメリットで少し狭いので一部二階建て部分をつていう話が出ていたと思うんですけど、今回もその北側の部分を含めると十分な面積が取れるということになりますか。

事務局長：建物で考えるのであれば当然道路がありますから、上側部分とかという話になると思うんです。下側は駐車場で使うというそういう使い方になるかと思います。広い敷地が全部あればそれで良いっていうのか、十分建てられる建物の建築面積が設けられるのであればそれは可能。

委員：園庭も作れます？これだけ土地がある町内なのに狭い所にわざわざ二階建てにしたりとかという。

委員長：前回の状況整理シートで南側が 1,650 平米、北側が 2,100 平米となっていますけれども。今回得られた地権者の方を入れるとどっち側にかのどれかどれくらいの広さになる感じですか。

事務局長：すいません、前回の時に今のこども園の面積はこれくらいなんですけどという話をされたと思うんですけど、それが今の仁科認定こども園だと 1,200 平米。単純に 2,100 から 1,200 を引くと 900 平米、それが園庭になるというイメージです。だからどこまで求めるかにもよりますよね。園庭がどれだけ必要かというのがあるんですけど、基本的にそ

ういった施設の基準面積というのがあるんですけど、その基準面積でいくと児童数が少ないのですごい園庭として少ない面積が基準になっちゃうんです。ただ、それが皆さんとか保護者さんとか園の先生方がどこまで求めるかというところになるかと思います。だっ広い方が良いというのは当然すごい大きな面積が確保できる土地というのを望むでしょうし、そこはどういう落とし所になるかというところが議論になるのかなと思いますけど。

委員 長：第3回の状況整理シートの中田避難地の土地利用の整備面積を見ると南側が3,200平米、北側が1,900平米というふうに第3回の方ではなっています。前回の第4回の状況整理シートの方ですと南側が1,650平米、北側が2,100平米となっています。南側が減った理由は今、南側の土地がちょっと協力出来ないということで引き算になっている。北側のところはむしろ協力してくれるよというところで2,100平米になった。今回、また協力するよと言ってくださったんで、北側については平米がどれくらい増えるのかっていうそういう御質問だったかなと思います。そういう意味？

委員 員：あっ、いや、その・・・

委員 長：可能性でそこが加わったことで二階建てにしなくて済むとか園庭がちゃんと出来る面積になったかということ。

委員 員：今あるこども園と同じぐらいの建物が建てられるかどうかというのが、イメージしやすいのでその安良里の面積で良いのかっていうのが伺えたらと思うんですが。

委員 長：というところで、今回その〇〇〇〇場合になったところで、今の仁科か伊豆海の所のイメージに近くなるということですよ、どうでしょうか。

事務局長：ごめんなさい。もう一回確認して来ますけど。北側の面積がこれが今回やっぱり協力するよという人の面積がもしかしたら入ってるかも知れないし、というところをこちよっと確認させてください。

委員 長：分かりました。ちょっと調べるということで別のところのまた後ほどということで確認出来ればと思います。他に如何でしょうか。

委員 員：私もちょっと先ほどの出た意見とすごく似てるんですけど、旧西伊豆中学校跡地はもう今は更地になった状態で周辺の道も拡張したあれもあって、建物をすぐに建てようと思えば決まってしまうと取り掛かれるというスピード性があるかなと思います。町を中心地区であって子どもの数も仁科地区が一番多いはずですよ。今、中学校も賀茂に行ってますけど結局は仁科地区の大勢の子どもたちがそちらに通っているという現状なんですけど、これは私の勝手な主観ですけど私は

あまり納得いってなくて、やっぱり統合とか合併とかになったら少ない地区の少ない人数が多いところに吸収されるというのが私は望ましいというか、勝手な私の考え方なんですけど。これから子どもたちが減って行く中でやっぱり仁科の中心地区にあった方が緊急車両などの到着時間も当然早いですし、病院も近かったり色んな病院もあったり、安良里診療所もありますけど。当然病院も近い、地区の方との触れ合いも他の場所でも当然出来ますけど、やっぱり中学校が賀茂に行く時にも子どもたちが居なくなって、大勢の子どもたちが居なくなって淋しいという声もいっぱいあったんですけど。あと、旧西伊豆中学校跡地の周りに周辺の住民が避難出来る場所とか何かあったという災害があった時に身を寄せる場所というのが無いんですよ。小中一貫校を建てる時にはそこに防災の施設を兼ね備えたしっかりした建物をということだったんですけど、それがとん挫したのでそういう意味でも旧西伊豆中学校跡地の周辺にはそういう建物があっても良いのかって思っています、何よりも肝心な安全性で行くとちょっと津波浸水区域というのは〇〇〇〇私は一番心配なんですけど、ピロティー方式の建物を建てるのか静浦の小中一貫校も目の前が海で私、あそこは元々実家が富士市なのであそこの道を通るんですけど、何年もあそこを歩き来して行く中で初めはすごいちょっと建物が古くてどうするのかなと思ってたら、東日本大震災があった後すぐに取り掛かって、下はピロティー方式のしっかりした学校になってるんです。たぶんあそこは裏の山もちょっと整地してあるのでなんかあった時に行けるようになってるかどうかわからないんですけど、学校の建物としては目の前にあれだけ近い目の前に海があってもああいう設備にしてあるという現状があるので、西伊豆でもそういうことが出来ないとは限らないのかなって思っています。あとはやっぱりどこの場所に居ても子どもたちにこういうことがあったらこういうふうにするんだよという危機感をいつも持たせるということも大事だと思うので、そこも含めて私の中では旧西伊豆中学校跡地が良いなというちょっと願望はあるんですけど。田子小学校も津波の心配が無くてとても良いとは思いますが、やっぱり裏山の崩れだったりとか周囲の道が狭い。そこまで行く国道から入って来る道も私はあそこのカーブしてる道はあまり使わないんですけども怖いので。やっぱり対向車が見ずらかったりだとか道が細いので、ただ危ないなという心配もありました。あと法面の崩れも心配なので、それに以外は皆さん言ってくださったので諸々心配なことはあるんですけど、ただ津波からは逃れられるという高い所にあって逃れられるなっていう安心感はあるん

ですけど。安良里については、前回まではやっぱり一番良いなど思っていたんですけど、やっぱりその地権者の方の了解が得られる場所、得られない場所をそこに今、調べてもらってますけど、どれだけの建物が建てられるかということと孤立してしまわないのかな、これは仁科に居ても仁科が孤立するは孤立すると思うんですけど孤立の心配だったりとか、保護者がやっぱり仁科地区の方が一番多いということ。旧洋ランセンターはちょっと私は問題外だなと思っていて、そこは小中一貫校を建てる時に先ほども言ってましたけども大変危険であるということを町からも言われて、「ここには絶対建てられない、危険ですよ。」ということがあったので白紙に一旦戻ったので、それを保護者に今更理解してもらおうというのはすごい理解を得るのは大変難しいことだと思うのでちょっと無理かなと思っています。以上です。

委員 長：ありがとうございます。ちょうど事務局長が戻られましたので、お願いします。

事務局長：すいません、お待たせいたしました。先ほどのやっぱり協力するよという土地を含めると 2,493 平米になります。南側は変わらず約 1,650 ということで北と南を合わせると約 4,140 平米ぐらいが確保出来るということになります。面積丸々、整形地ではないので真四角の土地ではないので、面積丸々使えるかとかそういうのはやっぱり計画を立てて絵を描いてみないと何ともいけませんけれども、単純に面積の計算でいくと今の仁科認定こども園の 1,210 平米という園舎面積ですので、単純に半分ぐらいが園舎で残りの 1,200 平米ぐらいが園庭というような解釈になるかと思えますけども、ただその 1,200 平米という面積というのが延床だと思うので 1 階 2 階の部分があるじゃないですか、建築面積だともうちょっと低い可能性がございますので。

委員 長：ちょっとその辺、もし園長先生方なんかその面積、保護者の懸念がありましたら御意見をお願いいたします。実際、安良里のところの面積で園舎が建って園庭を作った場合の保育環境として、今と比べてどのような変化が起きそうかとかという予想で構いませんので、もし園長先生方どうぞお願いいたします。

山本園長：園庭は広ければ広い方が理想なんですけど、今の現状で言うとそこは重要視していないかなというところで。出来たらあれば本当に良いですけども、今はちょっと安全というところを重要で考えているのであったらベストです。伊豆海ぐらいあれば本当にベストかなと思います。

齋藤園長：仁科認定こども園の方は今、低年齢児の入園する方が増えているので、園庭が未満児さんが使う方と大きなクラスの子が使う方とその比

を考えるとやっぱり今の伊豆海認定こども園ぐらの園庭があるのが望ましいですけど、一番に考えていただきたいのは本当に災害についてのところを重視して考えていただければと思います。

委員長：ありがとうございます。面積のところは実際計算してみないと何とも言えないけれども、狭くて園が成り立たないというわけでは無いというところがあるかなと思います。ただものすごく広くて贅沢なところは他と比べると中田避難地はやや落ちているというのは実際あるのかなと思います。

今、〇〇さんの方から西伊豆中学校跡地の方の候補地として上げていただきました。実際更地になっているというところと人口が多いというところ。またこども園だけではなくて、地域住民の避難地ですとかそういった複合的なことが考えられるのではないかということだったかなと思います。先ほど〇〇さんの方はそういうこともあるけれども小中の候補地として残しておきたいというところで提案されたというところでしたけれども、如何でしょうか。西伊豆中学校跡地の候補として今、意見が出て来たところですが。

委員：どこの候補地とやって1つだけ質問されたことがあるんですよ。俺も答えられなかったんですが、西伊豆に家がある人が例えば松崎の幼稚園に通った時には補助的なものは出るかという質問があるわけだけれども、よく分からない〇〇、消防とか何とかは補助が出てないけどちょっと教えてもらいたい。

山本係長：基本的にこの地域なので、西伊豆町には公立の認定こども園が2つ、松崎町には保育園が聖和保育園さんが1つと公立の幼稚園が1つということになりますので、例えば先ほどおっしゃった西伊豆の子どもが松崎の園に通うというのは聖和さんに通うというケースが西伊豆町にもあります。ただそうなった場合には、とりあえず補助的なものというのは今のところ無いのが現状です。例えば町内の保育園に行った場合には0歳児から保育料は無償化しておりますのでそういった補助はありますけれども、聖和さんに行った場合にはその無償化の対象外というかたち、3歳以上については国の方針で保育料無償にしていますけれども0・1・2歳児については保育料はかかるということになっています。

委員長：松崎町内に通うための補助そのものは存在はしない。私立の方はってことですね。公立の方はそのまま3からは無償化にされてるので条件としては同じ、未満児ってどうなりましたっけ。

山本係長：未満児については基本は保育料かかる、所得にも応じた状況ということになると思いますけど、所得が非課税世帯だったら保育料は払わな

くても良いんですけれども、住民税課税世帯については保育料はいただくようなかたちになっていきますので、松崎町は例えば幼稚園に行った場合でもまず幼稚園に行くことはあまり無いんですけど保育料はいただきます。幼稚園の場合、3歳児以上なので保育料はかかりませんが、聖和さんに行った0・1・2歳児は保育料がかかります。ただ基本的には西伊豆町から例えば聖和さんに行くというのは、西伊豆町と松崎町で相談してということにはなるんですけども、例えば保護者の就労先が松崎町にありますとかそういう条件付きということになりますので、仁科の子どもたちが例えば今のお話の流れからすると、中田に通うのは大変なので安良里に通うのは大変なので、じゃあ聖和さんに通いますかっていうとそれはちょっと別の話ということになると思います。補助ももちろん無いんですけども通える状況かと言われると、保護者が仕事で1人2人なら受け入れてもらえるかも知れないけれども、数多くの子どものとなると聖和さんに受け入れていただくというのは難しいという状況になると思います。

委員：仁科地区に聖和のマイクロバスが停まっているよね。あれは子どもが居るから停まっているということですよ。

山本係長：仁科地区に聖和さんのマイクロバスが回って来るのは、おそらく西伊豆病院にお勤めの松崎町の方。西伊豆病院にお勤めの方が聖和さんが終わったあと、西伊豆病院の保育施設に送迎してくれているというかたちではないかなと思います。あとは東海バスさんで保管もしているかなと思います。

委員：元品川学園の保育園みたいのがあって、あそこ行くと無料だとかなんとかって話を聞いたみたいなんですけど。

山本係長：しんわさんの保育園ですね。あちらも確か〇〇〇〇でやっています。

齋藤園長：しんわさんについても無償でやっているといるんですけど、その関係施設のところで働いていけば無償で、働いてないと預けられないという方も居ました。そこを退園して今は仁科のこども園の方に入ってるお子さんも居ます。

委員：施設で働いてる人かな。

齋藤園長：働いている人だったので、働いてなくても時々は預かっていたみたいなんですけど、もうそこのお仕事を辞めてしまったらもうしんわさんを使えないという保護者が居ました。

委員長：ありがとうございます。今のところ先生方、特に如何でしょうか。

1回ちょっと整理したいと思います。今は4つの候補地について御意見をいただいたところです。旧洋ランセンターを推された方は今のところ居なかったと思います。一番推された方が多かったのは中田

避難地のところでは、ここでのメリットとしては、水の問題だとか地盤が安心だとか診療所が近いこととか、そういったところで大人が目を通りやすい。懸念としてはアクセス面があるけれどもそれはどこに居ても同じだと。一部その過去に波切り地蔵まで津波が来た事実というのと、やや狭いのではないか。そこから子どもたちは人口が多いところから離れているので孤立しないかというデメリットは〇〇〇〇、そういった比較する中で中田避難地を推される方が多かったかなと思います。〇〇〇〇西伊豆中学校跡地のところで特に人口が多く、そもそも更地になっているというところでスピード感が持てると。仁科地区ということで様々な複合施設をすることで地域住民にとっても活用しやすい所になるのではないかと。但し懸念として津波浸水区域内になるということと、むしろその土地は小中、今後の候補地として残しておいた方が良くはないかというのがあったかなと思います。田子小学校の場合は建物があるのでそういったスピード感はあるけれども、やはり地盤の問題と裏山の土砂のところ、また能登半島の地震を踏まえてちょっと水のところの問題、そしてまた道路の問題というところで懸念の方が出て来るのかなと思います。ここで1つに絞ったところで全部決定するわけではないんですけども、もう少し掘り下げながら一応順位というかこの委員会としての意見としてまとめて行きたいなと思いますが、今のところの整理を踏まえてちょっと意見が変わったよとか、もう少し今出たメリット・デメリットのところでこう考えるという御意見があればぜひ出していきたいと思えます。如何でしょうか。

委員：ちょっとお聞きしたいんですけど、旧西伊豆中学校にもし園舎を建てるとしたら一番栗原寄りのところなので、裏山の山の崩れは心配ないということですよ。今、仁科小学校が建っている辺りの中学校から小学校が建ってる辺りの裏の山は令和何年かに危険区域に指定されるであろうということから小中一貫校をここに建てるのを止めたはずなんですけど、結局は指定されたのかされていないのか教えてください。

委員長：じゃあお願いします。

事務局長：現況はされてません。あの後、最近なんですけど建設課の方に県の砂防課の方から今後の考え方みたいなものが示されたということ聞いています。そこは県内全域を見て、最初はレッドゾーン指定をするよという話から今の古い基準で擁壁が建てられているところというのをどうやって改修して行くかとかという計画を立てているということで、その中でもランク付けをして早急に対策を取る所、そうでは

ない所みたいなリストが示されたというふうに聞いています。今の仁科小学校の裏山については、その危険度というか判定については重くないです。軽い方です。ただ、そうは言っても仁科小学校が現況あるわけで対策が取れてないという中でそこについて学校の裏山だけでも対策を取ることというのは可能というふうに建設課の方から聞いてます。それに対しては、県の方に要望して行くというところまで報告は出来ています。ただ、それが何年度にすべてが完成するかとかそこまでは全然まだ今の状況では分からないという状況です。県の方としてはその擁壁の対策を取れば、その擁壁よりも前面にレッドゾーンを貼って来るということは可能性は低いだろうというような見解を示しているというふうには聞いています。

委員長：分かりました？言葉をかなり選んでいます。

委員：この前もお話しましたが、旧西伊豆中跡地は栗原側に建ててハザードマップでいくとすぐちょっと近くの所に避難タワーが出来る予定になってますよね、これ。その避難タワーをその予定地があるようですけど、そっち側に立った所に避難タワーを建てればどうかなという考え、その辺がどうでしょうかね。

事務局長：〇〇委員がおっしゃってるのは、元の自転車屋さんの横のはなしですか。その辺については、申し訳ないですけど担当課の係長・主幹が居るので。

委員：防災課の担当として回答させていただきます。今、地図上で示している所に現在の予定では、令和7年度に津波避難タワーの建設に着工しようとしているところがあります。これはなぜこの場所へ選定したかということ、あの場所なら海側の方が山に逃げる、当然海から逃げるといことですが、津波が到達するまでに山まで逃げ切れない人があのエリアにはどうしても存在するものですから、山に行くまでの間にいわゆる一時的に避難できる場所を確保したいという意味であの場所に津波避難タワーを計画しました。そこから更に例えば西伊豆中跡地とかということ結局山の方になっちゃうので、それはあり得ないかなと思います。

委員長：〇〇さんのおっしゃりたかった所は津波避難タワーのもうちょっと上？北側〇〇・・・〇〇

委員：保育園が建ったすぐ近くという意味です。

委員長：まっ、これだけ近くにはなる。もし仮にこども園を作るとなると・・・

委員：およそ300メートルぐらいの差。新しく避難タワーを作ろうと思ってる所と幼稚園を作る所ではだいたい直線にして300メートルぐらい。私の所の地域なので話をさせてもらおうと、避難訓練をいつもやってる

んですけど右側から逃げて来る人は 25 分かかるんですけど。とてもしょうがないということで。地域としてはあそこに避難タワーを作るとは言っても 20 分以上かかるので、もうちょっと上側へ作ってこないかと言ったら見事に〇〇〇〇。そっちの学校の近く小学校の方へ寄った所へ。もうあそこは土地の買収はしたな、もう建てるばかりだね。1 年遅れぐらいだったかな、そういうところなので。もう 1 つは、中区の方に行ったところの小瀬の避難路ってあるんですよ。あそここのところ。あそこはちょっと高くなっていて整地すれば、子どもたちもそこへ避難出来るようなちょっとみかん畑もあったりして〇〇〇〇。避難タワー登るより先に行った方が近いかと安全かなとは思いますが。今でも幼稚園から小学校、中学校その避難路へ逃げろってことでこの 10 日にもやるんですけどね、そういう恰好で準備をして。

委員長：ありがとうございます。そういった意味でもし仮にこども園が建つとすると〇〇・・・〇〇、そのこども園の子たちが避難タワーに行くというよりは、そのこども園に留まるということで津波からは来ないような対策をすることも今、想定しているということになります。如何でしょうか、中学校跡地のところ。〇〇さんのところは先ほど小中の為にこども園は外した方が良くはないかというところで外したというところはありませんが。他にこの西伊豆中跡地を推す理由、あるいはやはりそれでも懸念する理由というのがあれば出していただければと思います。如何でしょうか。

委員：さっき、小学校中学校を作るためにあそこを残しておこうっていうような話をちょっとしたんだけど、あそこダメですね。先川に行ったやつだから。残しておこうなんてあれじゃないと思う

委員：すいません、確かにその通りかなと思います。自分の今までの経験から和歌山県の串本町へ一緒に〇〇さんも行きましたけども、やはりあそこも津波が 5 分とかで到達すると言われていています。串本町というのは和歌山県の最南、本州の最南端と呼ばれている所です。ですので、南海トラフの一番近い所と言っても良いかも知れないです。あそこでどういう対策をしているかという、公共施設が軒並み高台に移転して行ってるんですけど、これがおそらく民間の企業から高台に移転して行くというのはなかなかリスクが高くて難しいところではあると思うんですけど、もし仮に町民の意見が盛り上がり行って高台に小中一貫校というのが可能であれば、自分が一番適しているのは仁科小学校の裏山だと思っているんですけどね。あその裏山だったらそんなに高くないんです。そこを削り取ってというか、少し低くして低くした土

を例えば今の校舎がある所に埋めていく。そうすると校舎は地山の上にその削った山に建てます。その削った土砂なんかを今のグラウンド辺りに埋めれば高くになりますよね土が、地盤が。そこをグラウンドとして使う。これは静浦の小学校もそのようなかたちをとっている方もいます。元々静浦の小学校も道路と同じ高さにグラウンドがあったんですけど、1メートルとか2メートルぐらい高くした所にグラウンドを設けていて、そこから裏山に逃げられるような避難路が出来ているんですね。理想の話なんですけれども、そういったかたちで今のグラウンドとか仁科小学校にも埋め立ててグラウンドにしながら、裏山を開発して地山のしっかりとした所に校舎を建てられれば、それが一番この西伊豆町で安全な場所に小中一貫校を建てるということが実現出来るのではないかなというふうに思っています。そういった子が中学生になれば自分で走って山の方に逃げるところに行けますのでグラウンドで遊んでいたとしても逃げられる。ただ、こども園だと0歳から居るわけですので自力では逃げられないというところが、それを自分としてはあの場所にやはり作るのは非常に危険かなというふうに思っているところです。急な〇〇ですいません。小中一貫校の候補地としてのこうして行った方が良いんじゃないかなというふうに考えたものです。

委員長：ありがとうございます。やっぱり小中一貫校を今の更地に作るのではなくて、裏山を高台として想定してそのところに小中の建物を作って白地のところをグラウンドにしてと。そのためにもこども園をそこに作ってしまうとその〇〇さんの理想が少し崩れて来るというところと、やはり0歳児が逃げることがいくらピロティー方式にしたとしてもちょっとその辺が〇〇〇〇というところで、こども園については西伊豆中学校跡地ではなくて安良里にという結論に至ったという御意見だったかなと、非常に専門的なところですが、でも非常に面白いアイデアかなと思って聞いていましたが、ぜひそういう考え方が町役場の中で主流になれば議論変わった来るかなと思います。他に如何でしょうか。

委員：正直言うともう小中一貫校を建てられると思っている保護者はいません、はっきり言って。そこに夢を持っている人、申し訳ないですけどいないです。なので、私たちが生きてるうちに建つのかどうか分かんないけど、その建つか建たないか分からない、建てられるかどうか可能性があるのかないのか分からないところまで、はっきり言うとは保護者は落胆しているところで。もしかしたら建てられる可能性があるとしたらどうしようじゃあ私ももちろん良いと思います。ちなみに盛土だったら私は旧西伊豆中学校はお金もかかるし、費用も嵩むので

ちょっと無いかと思います。やっぱり津波の心配はすごく思っていた。あそこまでは1回の延長もしくは2回目辺りまでということですが、相当の高さなので普通に作っても安心出来ないの、そこに高さを加えるとなるとやっぱり子どもたちが逃げられる上の階に逃げられるかどうかという心配は確かにすごくあるところで、私も中田避難地と旧西伊豆中学校跡地はすごくすごくすごく悩んで、一応皆さんの聞いてから自分の意見を言ったんですけど、すごい迷ってるところです、はっきり言って。危険のリスクが大きいなというのは重々承知の上で。ただ、小中一貫校そこまではちょっと考えてなかったのも勉強になります。

委員長：ありがとうございます。小中一貫に限らず、それなりの色々開発して行くというアイディアは活かせるのではないかなと思います。

教育長：小中一貫校は保護者の方はもう諦めていらっしゃるという意見がありましたけれども、小中一貫校でやるのか、あるいは小学校、中学校が別の形になるのかそこはまだ分かりませんが、今の宇久須に西伊豆中学校をそのまま置いておくつもりは私は毛頭ありません。そもそもがそこは一時的に〇〇いうところで始まったと思うんですよ。今、私は人事をやっておりますけれども、人事的にもものすごい苦労しています。

委員：その話私も白紙に戻る前にも別の引退された元々校長先生をやってた方から大変になるよという話は聞いたんですけど、私は素人なのでどんなに大変なのかどうなるのかというのは一応保護者でしかないの、ちょっと理解出来なかったんですけど。ただ私が思うのは、この場で一生懸命みんな話をして決めたことがせっかくみんなで話をして答申したにもかかわらず、それがその反対だ反対だと言って、その勢いだけに他の町民は勢いだけに反対の勢いだけに押されて白紙になる状態がまたこの次も起こってしまえば、この会の意味も無いし議会がある意味も無いし、町長が居る意味も無いのでなんかそういうところにも保護者というか町民が落胆しているところではあると思うんですけど、反対する方には反対する方なりの意見意思があるのでそこは尊重して来たつもりなんですけど、言ったもの勝ちみたいになっちゃうと頂点ってどうなっちゃうのかなという心配とか、そういうところからなんか大変じゃないけど何かして行かないかやいけないのかなっていうふうにも話が飛んだんですけど、以上です。

委員：先川がなぜダメになったのかというところを言ってあげた方が良くと思う、なぜダメになったのか。私も答申出したんですけど、ダメになった結果について説明してあげないと。

教 育 長:そもそもがあそこに50億とかという金額のものが出るということで、議会でその予算が出された時に一番最初の時にこども園の用地を確保するというで否決された。それで1回がストップした。そうこうしている時に令和2年の12月にレッドゾーンに指定するという情報が県の方から入って来たんですよ。そこの書いたレッドゾーンの所に作るのかということで県の方でもわざわざそこに作るんですかということで納得されないだろうということで、町長の方もそこにレッドゾーンがある危険な所に校舎を作るのは見直しをするということで、戻そうというところがダメになったんです。それで色々持ち上げて作るじゃなくて先川の方に出来ないかとか出て来たという流れです。

委 員:先川が何でダメになったのか、そういうこと。

委 員:でも分かってます、一応。分かってるといふか色々な理由があるということは一応理解しているんですけど、あまりにもタイミングが説明会を開いた時に反対の方たちの勢いがすごかったのは間違いないですよ。これ以上、進められない現状も確かにあったと思うんですけど、私としてはでも朝倉さんが旧西伊豆中学校跡地の裏の山にレッドゾーンがかかっても建てられるよっていう説明をすごい事細かにしていただいた時に、私はその場に建てて一番道寄りに建てても良いんじゃないかなって思ったんですよ。すぐ建てられるのもなら。先川にそんなにこだわる必要は私はぶっちゃけ無かったですけど、無いんじゃないかと思ったんですけど、ただ白紙に戻った時にここで説明会があった時に町長が来て、先川にこだわり過ぎたんじゃないですかって言ったら、そんな危険な場所にあえて建てるんですかって言われました。でも保護者はその時にその言葉を初めて聞いたわけですね。朝倉さんが説明してくれた時には、こういうことをすれば建てられないことは無い建てられますよっていうことだったので、保護者の中でもその場所にそういうかたちで建てるといふことに賛成してる方が結構いたんですけど。今、結局レッドゾーンにならないなっていない。これ知ってる保護者はほとんどいないですけど、今、私も聞いたので。ちょっと話が全然違うのであれなんですけど、そういうことです、一応なんだかんだの理由があるのは一応理解はしてますけど。保護者的には多分反対されたっていう。

委 員:元中学校があった所は山が危ないからレッドゾーンになるよ、こんな所には建てられないと言って止めたよね。止めて先川へっていう話が出たので、それがレッドゾーンになってないと・・・。

委 員:そうです、なっていない。

委員：何を見間違えたかね。

委員：かも知れないで決めて、しょうがないですね、こういうのは。将来、小中一貫校が建つことを祈っています。

委員長：今、僕もだいたい把握はしてるんですけども、そういった意味で今回こども園については小中一貫にこだわると浸水区域〇〇〇〇こども園を先に検討しましょうということで切り離して検討が始まったということで、そういった意味でまず安全面を最優に議論して行く。併せて本当に実現が出来る場所というのをここで議論して次のステップに行かないとまた同じことが起きるのが一番僕は避けるべきだところと思って一応この会を作ってやってきました。今、かなり皆さん意見が出て来た中で出て来たのが今のところ一番候補地として上がったのが中田避難地の所かなと思います。それはもちろんで西伊豆中学校跡地の所もあるんだけど、おそらく西伊豆中学校跡地の所はまだ懸念事項が色々出て来るんだろうなというところと。そういった中で現実問題として、納得会が得られやすいところがこれだけの人数の方が推したということはこれから議会やファブコメをする中でも得られやすい可能性は高いかなというふうには聞きながら思いました。そういった意味で如何でしょうか。

まず、とりあえず順位を付けるというところのお達しが来ていますので、今、数的に言うと今日の現行でいうと中田避難地を第1候補としてこの委員会として意見として出て来たというふうに私は受け止めたんですが、この意見に反対や御意見がある方いらっしゃいますでしょうか。まず、第1候補としては中田避難地を第1候補とすることで御承認いただけますでしょうか。承認いただけます方は挙手をお願いいたします。ありがとうございます。■■■さんは如何でしょうか。

委員：やはり、中田避難地にしろ田子小にしろ本当に一長一短があるのでなかなか責任ある立場になるとちょっと難しいなと思うのが現状です。やっぱり子どもたちの命にかかわるものですので、どっちがどっちとなかなか言えないなという、すいません優柔不断で。

委員長：いえいえ、よく分かります。ありがとうございます。今、1ヶ所言い忘れちゃいましたけど、今回このメンバーは私以外16名いらっしゃるとは思いますが、専門として小学校と中学校の先生方と園長先生と私が入っているんですが、基本的には西伊豆町民の代表の方々の意見を最優先したいということで、意見は皆さんとか先生方も出すんですけども決定のところについてはちょっと辞退されるというところでお話がありましたのでそういったことで御理解いただければと思い

ます。すいません、ちょっと前後して申し訳ございませんでした。ちょっと〇〇さんの意見のところもありますし、〇〇さんの〇〇のところもありましたけれども、一応第1候補として中田避難地ということで御了解いただけたかなど、委員会としての意見として報告するかたちにしたいと思います。次に2候補、3候補あるいは候補として出さないという選択肢も含めて、あともう少し議論出来ればと思いますが。この今のところ、旧洋ランセンターは今日のお話の中で推す声が無かったんですけれども、洋ランセンターを候補として残すかどうかというところで、やはり残すべきだという御意見がある方は出していただければと思いますが、如何でしょうか。じゃあ、ちょっと今日欠席の方もいらっしゃるのではそこはまたにしたいと思います。

ついでに田子小と西伊豆中学校跡地のところなんですけれども、どうしましょうか。〇〇さんの方は西伊豆中学校跡地の方を推されてましたけれども、田子小と西伊豆中学校跡地の方はどのようにしましょうかというところなんです。〇〇さんの方は田子小学校のところを〇〇しましたけれども〇〇はちょっと難しいということでした。

委員：一応やっぱり、ここで〇〇〇〇は田子小ぐらいは残しても良いんじゃないかなと思います。結局、中田避難地が13メートル、田子小が21メートルですので、土砂崩れの危険性はありますがどうでしょうね。ここで切っちゃって一択というよりももう少し選択肢も残した方が良いんじゃないですか。

委員長：〇〇さんも田子小学校を推されて一番が良いというところでおそらく、ちょっと理由までは書いていないので判断が出来ないんですけれども、ありがとうございます。候補地として残すというところでは残したいと思いますが、一応もしこれから先に行った時に想定されるファブリックコメントがあります。その時の候補として安良里が入ってくる。田子と西伊豆中学校を入れると思いますが、その時に委員会として一応議論した結果こういう順位になったよというところまで出すと町民の方の判断がしやすくなる。そのメリット・デメリットやこういったことも含めて資料をまとめて出して行きたいんですけれども、委員会としてどちらの方を押して行くかというところ、つまり上位に位置付けるかというところをもう少し御意見をいただければと思いますが、先ほどの〇〇さんのところは御意見としては〇〇・・・〇〇と、仁科地区というところと色々な地域住民の活用が出来るような拡張性というんですけど、そういった視点で西伊豆中跡地が推されました。逆に田子小のところは土砂のところと道ですかね、懸念があるということで西伊豆中学校跡地の方が上位、そして位置付けたという

理解です。ちょっと勝手に言ったらもし違ってたら。

委員：難しいところですけど、どっちかと言ったら仁科に希望します。

委員長：ありがとうございます。その辺、如何でしょうか。どちらか田子か仁科かどちらかと言うとこっちの方が良いんじゃないかという御意見があれば、もう少し伺いたいんですが。どちらもリスクがある、どちらのリスクの方が低いか、あるいは対策することでリスクを下げる事が出来るかという視点ともう1つは町の発展性という観点から見た時に個人○○・・・○○そういったところが結構ポイントになるかなと思いますが。その辺り如何でしょうか。

委員：私は中田が良いって言ったんですけども、買収費用とか何もそういうのは出されていないので、その買収費用は町有地で0の所とどれぐらい差があるのか。それで町有地を今までの西伊豆中学校の所を嵩上げするとか、その差額とかそういうのも何もお金の面が何も出ていないので、「中田が良い。中田が良い。」なんて簡単に言っちゃたんですけども、その辺は買収費用というのはどれぐらいという見込みが付いているんですか。

委員長：ありがとうございます。買収費用の見込みのところですけど如何でしょうか。

事務局長：ここでいくらというのはなかなか言いにくいですが、地権者さんがその金額なのかということにも成りかねませんので何とも言えないところですけど、基本的には実売の取引価格等を参考にしながら交渉をして行くと思いますので、べらぼうに高い金額に変わるということは有り得ないと思います。造成についてもなるべく自然を残しつつとか、そういったことを考えながら○○○○ということは考えられるのかと思いますけれども、例えば盛土の費用とすれば、じゃあどれだけ盛るのという話になりますので、その盛る高さによっても金額というのは大幅に変わって来ますので、コスト面を今、いくらかかりますというのはなかなか言いにくいですよ。

委員：後ですね、完成までにかかる日数と言いますか年数と言いますか、買収してあるいは移動して建てる、あるいは田子小みたいにある程度なかたちでやるということになると要する年数とかはかなり変わって来るものですか。

事務局長：基本的にその設計して建設になるわけなので設計で例えば1年とか半年、半年じゃなくても良いかも知れませんね1年を見込んだとして、建物で1年とすれば概ね2年というような年月では最低でもかかると思います。例えば用地買収をいかに短縮して、造成工事も少なくすれば、造成と建設で1年これはたぶん出来ると思いますが、高く盛る

とかそうなった場合はそこが伸びて行くというような状況だと思います。

委員長：ということは、これはどの候補地もだいたい同じぐらいだと思っていただいて良いかなと思います。田子小の場合は実際に修繕する時にどこをどうに変えるかというところの設計にも関わって来ますし、西伊豆中跡地だとまず津波を想定する波の高さとかを考えて〇〇〇〇何メートルにするとか、それによって当然お金も変わって来ますし、それはその町民や実際かかわる方々がいかに熱意をもってスピード感を持ってやってくれるかによって全然変わって来ますので、そういった意味でもここでそういったアウトプットして行くことは大事なかなと思います。

委員：国とか県から補助みたいのは出るんですか。

委員長：如何でしょうか。

事務局長：学校は基本的に交付金みたいなものがあるんですけど、こども園は砂防の補助金が無いと思いましたがね、確か。

委員長：おそらくほぼ無いと思っていただいて良いかな。これが小学校になって義務教育に関わって来るので国の補助金が3分の1とか入って来るんですけど、なんだけれどもこども園単独だといえ、内閣府の方ですとちょっとかも知れないけれどもあまり見込めない。その代わり面積の大きさはそこまで大きくは〇〇〇〇とは思いますが。

委員：あと、例えばそれに園舎に例えば防災機能を備えるとか、小中一貫校と同じなんですけど、なんか複合的なその防災とか例えば役場の一部何かそこに入るとかっていうことでも出ない？何かを組み合わせても出ない？

事務局長：基本的に認定こども園は幼稚園部分のみしか補助対象にならないと思いましたが。保育部はならない。だから認定こども園を建てても面積案分で幼稚園分のお金しか補助が出ないというふうに思いました。複合にするというところについては、そこはちょっと教育委員会部局の補助金ではなくて、例えば防災部局でそういう補助金があればこの部分だけはそっちの補助金でとかということ、もしかしたら可能かも知れませんが。

委員長：この辺はもう〇〇〇〇かなと思います。だから今、おっしゃってくださった色んなことを複合的にして行くと別の所から持って来られる可能性がある。ただ1つ言えるのは改修にはほとんど補助金は入らない。新設、中田地区に建てた方が補助金としては貰える可能性は高くなるということはあるかなと思います。他にどうでしょうか。

ほんとに西伊豆町、どちらか例えばどちらを候補として同立でと

いうことも出来ますけど、どうかたちにするのか、この後の確実にこども園の建設に繋がっている〇〇に出来るかというところで、如何でしょうか。

逆に田子小の方を残して〇〇として強く推したいという御意見等があればと思いますけれども。ちょっと今日は懸念材料の方が多く出たかなと印象ではあったんですけども。

委員：田子小の方を推したのはやはり 21 メートルという高さ。やはりデメリットとして、道路の狭さとか裏山が崩れそうだとかありますけど、津波の面から考えれば 21 メートルというのは一番の魅力じゃないかと思って中田地区の比較対象として残したらどうかなと思っています。

委員長：ありがとうございます。やはりその高台であるということを最大限なメリットとして活かすことが出来るということですね。それほんとに他の3つには無い確実に波が絶対来ない所というのは田子小学校の方ということでそれは大きなメリットとして感じられる状況の方もいらっしゃるかなと思います。他どうでしょうか。

委員：これは答申はいつまでに答申することになる？

委員長：答申ですか。

事務局長：年度中にお願いしたいと思っています。

委員：例えば、委員会の中で候補地をいくつも出してもいつまで議論しても結果は出ないと思うんです。であれば、皆さんに一応計って優先順位を決めた中で答申するしかないと思うんですよ。私は地区として防災の方でやっぱり要望になりますけども、安良里地区には避難所となる所が無いわけですよ。例え第2分団詰所の2階もせいぜい入って 40 名。〇〇台風 19 号の時にはそこにいっぱい向こうにもいっぱい、それで賀茂中の体育館へ移動すると。結局町内を見ると安良里地区が一番その避難所の防災に欠けているところです、そうした面で見れば。であれば、誘致の際には園がそこに出来れば、ある程度そういうものも可能になるのかなと期待があるわけですよ。今、その多爾夜神社のコミュニティー防災センターがあるわけですがその2階は災害時は町の土地になります、安良里支部の。下を何とか宿泊出来るようなかたちにならないかというような考えもしています。ということは、避難所となる所が無いというのがそれが一番防災で地区を守る人間としては気になる所ですね。なのでそれが出来ればありがたいなと期待を持っています。

委員長：ありがとうございます。〇〇〇〇なので、今、順位を決めている最中で1番目が決まったので2番3番をどうするかというので、もう今日決めてしまいたいというところで今、確認をしているところですので。

また、安良里地区のそこありがとうございます。もし安良里地区になったらそれも1つのメリットになるかなと思います。その地区にとっての避難地、先ほどの西伊豆中学校跡地のところと同じように安良里地区でやっても、ただ面積の問題がちょっとあるのでどこまで出来るかは別ですけど住民の避難地として活用することが重要ということでそれもメリットとして書き込みたいなと思います。他に如何でしょうか。

委員：園長先生方にはどこが良いのとかというあれは〇〇出来ないからあれなんですけど、私的にはもうはっきり言って先生方の考えに私は準じた方が良いなってついて行きたいなと思ってるんですけど、それが出来ないの先生方が園長先生たちがどう思ってるかのヒントだけでも。

委員長：採決の決定に関わらないというだけで、〇〇とかは出してもらって全然問題ない。

委員：はっきりここと言わなくても良いので、なんかちょっと言ってもらえれば。

委員長：延長先生とあと、小学校と中学校の先生もちょっと今のところも踏まえてということで先に園長先生の方から御意見をいただければと思います。変な背負うものを背負わなくて一町民として。

齋藤園長：仁科の方の職員の中で話をした時には、やはり田子小、中田避難地、西伊豆中跡地という3点が同じぐらい良いということなんですけど、今の現状から行くと駐車場とかアクセスとかその辺のところから行くと西伊豆中跡地それから中田避難地が良いのかなというふうに個人的には思います。ただ、西伊豆中跡地については、今、小中一貫校の話も出ているのでそうするとその兼ね合いも見て、町全体の子どもたちのこの教育のところの場所を選定からすると中田避難地も良いのかなと思います。

山本園長：伊豆海の方は、今、本当に危ない状況なので建てるのに何年もかかるのであれば、今すぐ行ける21メートルの田子小学校。そして田子小学校の教室がたくさんあるので、町の図書館であったり田子支所であったり、地域の方が今、旧賀茂幼稚園で体操教室みたいなものを行っているのかな、そういう体操教室みたいなものとか、あと家庭科室で婦人会に方が廃油石鹸なんか作ってますよね、今、憩いの家とかで。そんなのを作れる場所を作って、そういう施設もありながらの園舎でこれが一番すぐに上に行かれる方法かなというのをちょっと話したのと。今、ちょっと中田避難地も良いんですけどいつ建つんだろうなというのがあって。あとは今のお話を聞いて〇〇さんのその多い方

が少ないところに行くというのを意見を聞いていて、そうだよなと思って。今、伊豆海が全体数が28名なんですけど、令和6年度は20名に減るんですよ。建つのが何年後かにもよるんですけど、もしかしたら中田避難地とかそっちにした時に田子とか安良里とか宇久須の子が居ないで仁科だけの子が通うようになるのかなとか、ちょっとそこを考えて今、ちょっとそこが思ったところで。お子さんの生まれる人数も少なくなって来ているとなるとちょっと今、悩んでいたところかなと思います。今すぐに行けるのは田子小なのかなという話はしました。あと、新しく建てるとなると今、悩んでたところかなと思います。今、すぐに行けるのは田子小なのかなという話はしました。あと新しく建てるとなるとなんか色々な問題が出て来て、町の人たちが使えるような施設を一緒になってなった方がスムーズっていうか申し訳ないんですけど、そこがちょっと〇〇ではあります。

委員長：ありがとうございます。〇〇先生、個人での意見でも良いですし、小学校のカットしますので、今の議論を踏まえて御意見をいただければ。

渡邊校長：個人的には仁科小の校長ですので、その場所については私は仁科地区の人たちの避難地が建物として無いところ、広さ、アクセスそれと保育園として送り迎えをして仕事から帰ってから行くことを含めると、と思っています。

土屋校長：すいません、自分はどこというのは難しいかと思うんですが話し合いの流れを聞いているとやはり中田避難地、それから田子小、旧西伊豆中跡地この辺りというのが候補になって来るのかなというふうに思います。

委員長：ありがとうございます。ということで、それぞれこの3つについては特に田子小と旧西伊豆中学校跡地のところは、田子小はたぶん建物があるということですがすぐ使えるかどうかはちょっと時間はあれだけでも少なくとも買収とかの時間がかからない分移動はしやすくなるスピード感を重視した。田子小の場合は、まず高台ということとスピード感、早さが見込めるんじゃないかということだと思います。仁科の所は人口が多いというところと町としての発展性、特にその津波対策というところを重視するのかなと。ただ一方で津波浸水区域内というところの懸念をされる方も多いです。残り続けるのかなというところかなと思います。そういった意味で中田避難地の場合はベストでは無いけれども、それぞれのデメリットの少なさというところでこの委員会の中では一番〇〇〇〇として残って来たところかなと。で、踏まえて改めてどうしようかということになかなか数を決めるのは

難しいかなというところと、なんか今の先生方のを聞いて何か感想とか御意見改めて感じたところがあれば今、出していただければと思います、如何でしょうか。

委員：伊豆海の先生の意見を聞いて思ったのは、園は新しくどこに建つにしろある程度の時間はかかりますよ、最低でも2年とか。それまでに間は例えば田子小学校、もう4月からは生徒が居なくなりますけど、その例えば空き教室を活用し一時的に、でもちょっと難しいかも知れませんが一時的に仮住まいじゃないですけど、ていうふうにして使うことは出来ないのかなと、やっぱり親御さんも先生方も安心だとは思いますが。そういうふうには出来ないのかなと思いました。

委員長：ありがとうございます。ずっとというより一時的にまず建物がある所に一旦移して、その後どちらか安良里か西伊豆かというところで町の施策も含めて検討したらどうかという御意見ですね。今の御意見について如何でしょうか。一時的であってもやはりバスの問題とか道路の問題とかクリアする必要があるので来年からすぐということは難しいかなと思いますけれども、田子小の場合だとそういった完璧なものではなくて、まず一旦入るということも可能性としてはあるのかなという今、受け止められるかなと思います。今、新しいアイディアを出していただきましたけれども、たぶん2番と3番の順位付けというのがちょっと今話を聞くと難しいかなということと、逆に順位付けをすることによってちょっとまた混乱をして来るかなというふうに思ったところなんです。ここで1つ、まだ事務局の方で何かありますでしょうか。

事務局長：先ほどの一時的に田子小へという話がありましたけれども、そのまま使えるかと言ったらなかなか難しいとは思いますが。やっぱり小学校とこども園で機能が違いますし、給食室の問題だとか保育室の安全の問題だとかというのがあるので、じゃあ4月から「はい、どうぞ」というのはちょっとそこは不可能だと思います。田子小学校には今、ほとんど田子の方がいらっしゃいますけど、水道がこれが非常に悪い状態なんです。なので、あそこの施設を使うとしてもやはり給水設備というのは必ず改修が必要というのが出て来ますので、そういうのを考えていくといきなり4月というのは厳しいでしょうというのが現状かなと思います。ただ園長がおっしゃったように複合施設として使うというのは町の財産を有効活用する上では良い案だとは思いますが。

委員長：ありがとうございます。おそらくそれぞれ決定打が無いのでそれぞれまた色んなアイディアが出て来るかなと思うんですけども、やはりまず今回こども園の話が出て来た時にはまずこども園の土地を早

く決めて、正規のルートに乗せないと議論が進んで行かないので、そういった意味でまず今日皆さんの話を聞いた中で色々メリット・デメリットがある中でこの現在の4つの候補地の中では、まず中田避難地を委員会としては推して行くと。本当は2位3位を決めようかなと思っていたんですけれども今、皆さんの話をお伺いすると1位は中田避難地だけでも、ただ田子小の場合はこんな活用の仕方があるとかこんな懸念もある。また西伊豆中学校跡地の方はむしろ長時間がかかって津波のところはなかなか理解得にくいかも知れないけども、こういった町の発展性もある。そういったことも含めて永久にこども園をずっとそのままというよりもまずは中田避難地を第1候補にしながらも残りの候補の2つの活用のところも含めて早急に力がある人たちが議論を進めて、西伊豆町のこども園だけでなく町の発展性やそういったところを議論を進めて行くように委員会として町長にお願いするというかたちで良いかなと今、僕は頭で考えていますけれども。

まず、委員会の候補地としては中田避難地を1位として行く。ただそれだけではなくて、一応田子小学校と西伊豆中学校跡地もそれぞれ活用の案も出て来たので、そこも含めて町民の意見や議員の方が議論した上で選定をしていただきたいというかたちで町長にお話を答申を出すという趣旨で止めたいと思うんですが、これに対して如何でしょうか。もうちょっとしっかり抽出すべきであるということであればもうちょっとやりますし。ただ今日の議論で行くとかなり出尽くした感はあるかなと。ただこの委員会は色んな知識や情報があるので出て来たんですが、これから先ファブコメや色々なそれこそ西伊豆町の方々から出て来た時にこの議論の結果を踏まえて回答出来るようなかたちで行政の方にはお願いしたいと思えますし、それが出来るようなかたちで意見聴取ですとか説明などがというかたち進めて行くかたちに〇〇していただければと思います。如何でしょうか。

ありがとうございます。ちょっと具体的な文書のまとめ方とかについては、ちょっと今日欠席の方もいますので意見を聴取しながら私と事務局の方で文書についてはまとめさせていただくということで預らせていただければと思いますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

ありがとうございました。何とかこの委員会としての意見としては1つ目のことはまとまって来たかなと。ただこれから色んな活用方法やアイデアが出て来るかなと思いますので、またその時にも御協力いただければなというふうに思います。

じゃあ、ちょっと一旦今後の進め方とかについて事務局の方から

あればお願いいたします。

今、こちらの方に預らせていただいていたのですが、それをもう一回開いて確認してもらおう機会を作るか、他の所だとメール審議、郵送審議というやり方もあるんですけども。どちらにしますか。色々な会議がたくさん出ているのと、皆さんお忙しい中来ていただいているので私の方で作成したものを皆さんにメールというか郵送でお送りして、何週間か期間を設けますのでそこで何か御意見をいただいたらそれを踏まえてまた修正をして、また再度お送りさせていただいて出来れば3月中今年度中に私の方から町長の方に皆さんの了承を得た上で町長に答申を受け渡すというスケジュールで進めさせていただければと思いますがよろしいでしょうか。ありがとうございます。ちょっと書きっぷりが難しいなと思いながらもちょっと書かさせていただきますので、今日の皆さんの〇〇した議論を踏まえてなんか上手く熱意を持って伝えられるようなかたちで工夫したいと思いますのでよろしくお願いいたします。目安としては3月中旬ぐらいには一度早めに出させていただきます、そこから1週間ほど見ていただいているようなスケジュール感で進めさせていただければと思います。遅くとも3月中には町長に渡す感じでスケジュールを組みたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

何か皆さんの方で確認やあるいは要望等あればお聞きしたいと思いますが、如何でしょうか。ありがとうございます。では進行の方を事務局にお戻しします。

事務局長：ありがとうございます。長時間に渡りまして御審議ありがとうございます。先ほど、〇〇委員からもレッドゾーンの話がありましたけれども、私も担当としてその都度その都度、最適な案を提案して来たつもりです。一番県に対して憤りを感じているのは私だと思っていますから。すいません、以上で、失礼しました。閉会を副委員長の方からお願いします。

副委員長：もう一回確認するけど、答申書の内容は郵送で送るということ。ということで、もう一回集まってやるそうです。

事務局長：郵送で。

副委員長：集まらない、郵送だけで承認で。皆さんの所に本文を郵送してそこで承認という恰好で、その時に意見をもらうってこと？

事務局長：そうして意見をもらって、そこで手直ししてもう一度再確認して。

副委員長：もう一回？

事務局長：修正が入れば。

副委員長：その色々意見をもらったやつをそれで修正したやつをもう一回確認。

そういうことだそうなので、もう一回集まらなくて結構だそうです。
夜間会議でしたけど大変ご苦労さまでした。ありがとうございました。